

IV-65

山間過疎地域における人口動態と定住意識について

豊橋技術科学大学 学生会員 ○熊谷 慎二  
正会員 青島 龍太郎

1. はじめに

モータリゼーションの発展と道路整備によるモビリティの高まり、そして生活圏の広域化は、とりわけ都市隣接地域における人口増につながっている。本研究が対象としている愛知県東三河山間地域においてもこういった動きが見られる。筆者らは、この地域における人口動態と住民の定住意識に着目し、分析を進めるとともに、山間地域の将来の定住化について考察を加える。

2. 調査

本研究では、東三河山間8町村（北設楽郡6町村：以下北設と呼ぶ、南設楽郡2町村：以下南設と呼ぶ）を取りあげ、表-1に示す5項目に及ぶ調査を行った。

3. 分析結果

(1) 人口動態

図-1は愛知県の人口統計データをもとに、コホート移動モデルを用いて、570年までの人口を予測し、5つの年齢階層に分けて示したものである。両地域とも今後さらに高齢化が進むものと思われる。また、49歳までの階層で見ると、南設においては、540年ごろの急激な減少が、555年以降は横ばいになると予測される。一方、北設ではさらにこの減少が続くものと思われる、特に若年者においてその傾向が強い。さらに転出入調査等で得られた転入・転出者の超過数についてみたものが図-2である。北設においては、ほとんどの階層で転出超過であるのに対し、南設では0～4歳、30～34歳を中心にかなりの転入超過がみられる。また、転入前の住所及び転出先については、南設が東三河都市域との関係が強いことがわかった。

(2) 定住意識

まず高校生の定住意識についてであるが、南設に隣接する新城市内の高校にもかなりの山間出身者がいるので、それを含めて分析する。卒業後、地元に残ると答えた者は、北設に比べ南設・新城で多い。また、一旦地元を離れた後Uターンを希望する者も南設・新城で多く、この傾向は就職者よりも進学者において強い。図-3に示すように、Uターン意志のある理由としては、3地域とも長男のため、また、Uターン意志なしの理由では、地

表-1 調査項目

|                   | 調査年月                  | 調査対象                                 | 調査方法                                | 回収数、回収率                                                     | 主な調査内容                                  |
|-------------------|-----------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 1. 転出入調査          | S. 60. 10             | 東三河8町村における、S. 55-60年の転入転出者<br>各1/2抽出 | 各町村役場で<br>の転入・転出<br>届けの閲覧<br>各1/2抽出 | 北設転入(1346世帯)<br>北設転出(2016世帯)<br>南設転入(897世帯)<br>南設転出(1439世帯) | 転入・転出者の家族<br>属性及び、移動場所                  |
| 2. 転出入<br>アンケート   | S. 60. 12             | 上記調査をも<br>とに、1/2<br>抽出し、転出<br>者が男性の者 | アンケート                               | 転出者(216世帯)<br>回収率28.5%<br>転入者(208世帯)<br>回収率27.4%            | 属性、家族形態<br>通勤状況、定住意識<br>要望施設等           |
| 3. 高校生<br>アンケート   | S. 59. 7<br>S. 60. 10 | ・全高校生<br>・北設3校<br>・南設2校<br>・新城2校     | アンケート                               | 北設(545人)<br>回収率28.5%<br>南設(341人)<br>回収率100%                 | 高校卒業後の進路、<br>地元への定住及び<br>Uターンに対する<br>意向 |
| 4. 若者定住者<br>アンケート | S. 60. 12             | 農業者、田口<br>・北設楽郡の<br>・55-59歳の<br>・卒業生 | アンケート                               | 北設 19人<br>南設 15人<br>回収率25.8%                                | 職業及び定住に關<br>する意識                        |
| 5. 企業課税<br>意向調査   | S. 59. 7              | 北設楽郡<br>各町村の住民                       | アンケート                               | 4198世帯<br>回収率9.3%                                           | 企業課税及び地元<br>定住に対する意向                    |

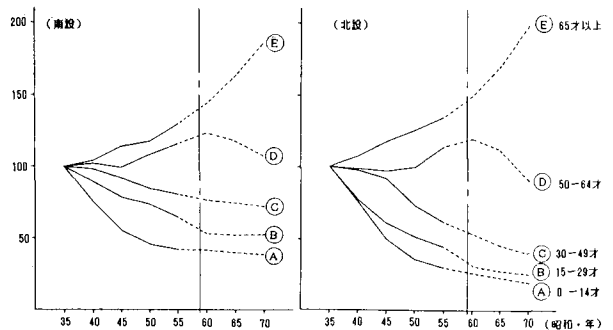


図-1 年齢階層別人口推移(35年を100とする)

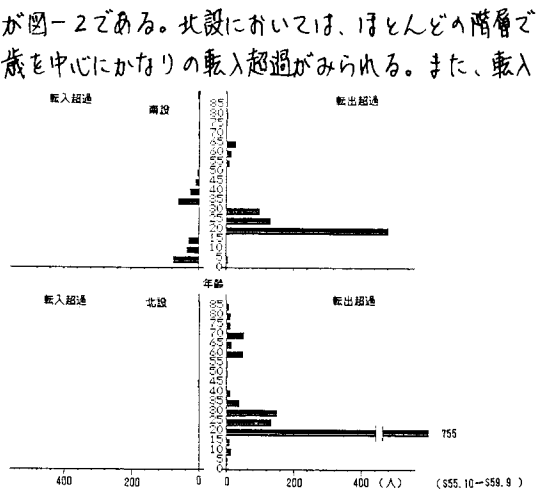


図-2 転入・転出超過数

